



まんだらげ



患者さまの権利

- 1 個人として尊重され、質の高い医療を受ける権利**
個人の人格が尊重され、年齢、性別、信条、障害の有無などにかかわらず、必要かつ十分な医療を平等に受ける権利があります。
- 2 医療について十分な説明を受ける権利**
ご自身が受ける処置・手術や検査等について、十分な説明を受ける権利があります。また、他の医療機関の医師の意見(セカンド・オピニオン)を求める権利があります
- 3 自分が受ける医療を自ら決定する権利**
納得できるまで説明を受けたのち、ご自身が受ける医療について意見を表明し、自らの意思に基づいて決定する権利があります。
- 4 医療について情報提供を受ける権利**
自分の病気や受けている医療について知ることができるとともに、カルテ等の開示を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーが守られる権利**
医療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります

県医大の屋上のヘリポートから救急現場に直行し、搬送するドクターヘリは、平成15年の導入以来重症患者の救命率の向上と後遺障害の軽減につながっています

CONTENTS

- 診療科紹介 / 呼吸器・アレルギー内科
歯科口腔外科
- 病棟だより / 7階東病棟
- 院内TOPICS / 化学療法センター開設
- くるーずあっぷ / 緩和ケアチーム
- 栄養ワンポイントアドバイス
- お薬の豆知識 / インフルエンザワクチン

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の学章にも採用されています。

- 理念**
私達は患者さま本位で、質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。
- 基本方針**
- 1 患者さまとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。
 - 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
 - 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
 - 4 地域の中核病院として、和歌山の保健医療を推進します。



【呼吸器・アレルギー内科】

COPD、気管支喘息を中心に 県内呼吸器診療の中心的役割を果たす

気管支喘息などのアレルギー疾患や慢性閉塞性肺疾患（COPD）、各種間質性肺炎、肺結核、睡眠時無呼吸症候群、肺がんなど、広範囲にわたる呼吸器疾患をおもに担当し、さらにB型C型肝炎などのウイルス性肝炎、自己免疫肝炎、原発性胆汁性肝硬変、肺がんなどの肝臓疾患も担当しています。

呼吸器疾患の年間総新患数は700人余りで、呼吸機能検査や各種画像検査、気道過敏性検査など、先端検査機器を駆使し、診療にあたっています。特に近年、死亡率が急増し、世界規模での社会問題となってきたCOPDと、罹患率が増加を続けている気管支喘息の診断・治療に対し、精力的に取り組んでいます。

医療スタッフは医師、大学院生を含め全14名。なかでも中心となる一ノ瀬正和教授は、COPDにおける日本の第一人者であり、診断・治療のための臨床的バイオマーカーの開発や閉塞性肺疾患における酸化窒素化ストレスの成績は、国内でも群を抜いており、和歌山県の呼吸器診療の中心的役割を担うと同時に、日本の呼吸器医療を牽引しています。



【歯科口腔外科】

日本顎関節学会が認定する 和歌山県内唯一の研修機関

歯を中心として頬、舌、歯茎、上顎（あご）・下顎等、食物を口に入れて噛み砕き飲み込むまでの機能を健康に保ち、維持することを目的とし、主に、顎関節、智歯周囲炎（親知らず）、むし歯、歯周病、口腔がん、顎変形、唇顎口蓋裂などの治療にあたっています。

顎関節症は増加傾向で、女性の比率が高く、最近になってホルモンが影響していることが判明してきました。まずは手術を伴わない方法で治療をし、これで治らない場合には外科的治療を。重症の症例には、関節腔内洗浄法や顎関節鏡視下剥離授動術を行います。その外科治療の効果率は95～98%。術後患者さんに合ったリハビリをすすめることで治療

効果を高めており、このような取り組みは日本でも注目されています。当科は、日本顎関節学会が認定する県内唯一の研修機関であり、メーカーと共同で医療器具の開発も行い、口腔外科治療に貢献しています。

また、当科は、日本の医科大学附属病院として初めて入院患者さんの手術前後の口腔ケア（歯と歯茎のブラッシングと舌の雑菌処理）を実施し、その結果、手術後の経過が良好で入院日数も減少傾向となる成果をあげています。



病棟だより

スタッフのアイデアでクリスマスイベント

7階東病棟では、毎年12月になると、入院生活をいきいきと送ってもらうために、医師と看護師、学生ボランティアらがサンタクロースに扮して、入院中の子どもたちを訪問してまわります。子どもたちに喜んでもらおうと、医療スタッフが企画したもので、毎年の恒例行事に。

自由に歩き回れるプレイルームはボランティアの協力もあり常に四季折々の飾り付けを遊び心いっぱいに行っています。



院内とびっくす

抗がん剤治療の高度化・安全性の向上 県内最大規模の化学療法センター開設

これまで診療科ごとに行われていた外来患者の抗がん剤治療を一元化し、安全性の向上、治療の高度化を目指すことを目的として、10月1日、病院1階東玄関脇に「化学療法センター」を開設しました。

昨年10月から約1年間かけ整備が進められ、214m²とゆったりとした広さのスペースには、リクライニングチェア10台、ベッド5台を備え付け、リラックスして治療に臨めるようにと、室内には常にBGMを流し、治療を受けている間は、脇に設けら

れたそれぞれの液晶テレビを利用できます。また、専門の調剤室も設置し、患者さんの待ち時間の軽減につながっています。

センターには医師1人、薬剤師2人、看護師2人が専任スタッフとして配属。各科の医師らと連携しながら、1日20~40人の患者さんの対応に当たります。



くろーずあっぱ

がん患者さんを支援する緩和ケアチーム

日本人男性の2人に1人、女性の3人に1人ががんになる(厚生労働省2004年推計)といわれているのをご存じですか?このような現状を受け、平成19年4月「がん対策基本法」が施行、6月「がん対策推進基本計画」が閣議決定されました。この計画の重点課題には「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」が盛り込まれています。県がん診療連携拠点病院の指定を受けるにあたり、当院には「緩和ケアチーム」が結成されました。

当チームは麻酔科(ペインクリニック)医師・精神科医師・看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカー各1名ずつがコアメンバーとなっている多職種チームです。あらゆる方面から、入院中のがん患者さんを対象に支援活動を行っております。今後は、院内や地域のがん医療にかかわるスタッフの方々に、緩和ケアに関する講演活動や、地域連携の強化に向けた活動を行っていく予定です。



栄養ワンポイントアドバイス【病態栄養治療部】

果物に含まれる タンパク質分解酵素について

パイナップルやイチジク、パパイヤ、キウイには、タンパク質分解酵素が含まれ、この分解酵素を調理に使うと、肉などを軟らかく調理することができます。酵素は熱を加えると、働

きが失われるので軟らかくしたい肉などは、生の果物を使い、調味液と一緒に漬け込んでおくことがポイントです。また、家庭でケーキやゼリーを作る時は、タンパク質分解酵素を含む果物をゼラチンで固めようとするとうまく固めることができません。この場合は寒天で固めてください。なお、口内炎等がある場合は、タンパク質分解酵素を含む果物は避けてください。



受講無料

お気軽にご参加下さい。

お知らせ

「最新の医療カンファランス」

「明日を生き抜く医療知識と実践・ここまで進んだ病気の診断と治療」をテーマに専門医がそれぞれの疾患についてわかりやすく説明します。

場所：和歌山県立医科大学 図書館棟3階
(生涯研修・地域医療支援センター研究室)

日時：第2木曜午後3時～午後5時

12月13日(木)「顎関節の病気」

○顎関節症治療の現状

講師・医大・歯科口腔外科 東條 格

○変形性顎関節症に対する治療

講師・医大・歯科口腔外科 藤田 茂之

1月10日(木)「胸部の病気」

○大動脈瘤の治療

講師・医大・外科学第一 西村 好晴

○乳がんの最新治療

講師・医大・外科学第一 尾浦 正二

■健康講座

「食について楽しく学ぼう」

12月25日(火)午後1時半～午後3時半

場所：有田市民会館第1会議室

講師：医大 宇都宮洋才

参加対象：小学校5年生以上の方

参加費：無料

定員：先着100人(申込不要)

お薬の豆知識



シリーズ③「インフルエンザ」

～薬剤部から～

毎年12月～3月はインフルエンザが流行します。ワクチンはその年の流行を見通して作られます。ただ、鶏卵アレルギーのある人や呼吸器系、循環器系の慢性疾患の方は担当医と相談を。また、ワクチンは接種して効果が出るのに2週間、1回の接種で約3カ月程度有効。変異株の出現などにより接種したからといって絶対インフルエンザにならないということはありませんが、症状が軽くてすむことがあります。

募集



和歌山県立医科大学 看護師、助産師募集

■募集期間

第3回 平成20年1月7日(月)～平成20年1月29日(火)消印有効

■試験日

第3回採用試験＝平成20年2月9日(土) 会場＝和歌山市

■採用試験等のお問い合わせ

医科大学事務局総務課 TEL 073-447-2300(内線5711)

採用の案内は本学ホームページにも掲載しています

<http://www.wakayama-med.ac.jp/oshirase/kangobosyu.html>



当院では、和医大の学生たちが緩和ケアボランティアとして活動しています。患者さんの話し相手をしたり、季節の飾りを飾ったりと患者さんが快適に過ごせるよう工夫を凝らしています。また、日本財団の助成金を活用した学習会を定期的に開催し、ボランティア活動に役立てようと日々努力しています。



講師を招いて学習会

医療書が充実している「図書コーナー」開設

患者さんやご家族のみならず、病気の治療や療養について自由に情報を得たり、気分転換ができる場をめざして、2階フロアの一角に院内図書コーナーを開設しました。医療書や闘病記ほか、小説、絵本、趣味、マンガなど約640冊。入院患者さんに限り貸出もしています。



和歌山県立医科大学附属病院広報誌 まんだらげ〈vol.3〉

2007年12月発行

発行／和歌山県立医科大学附属病院

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300

【ホームページアドレス】

<http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>

※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

外来受付時間

・受付時間 午前8時50分～午前11時30分

・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)

・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

電話予約センター

受付時間 月～金 午前8:30～午後4:00

【祝日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く】

TEL 073-441-0489

電話をしていただく時間帯により、回線が大変ごみ合うことがあり、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご了承ください。

次号発行は
3月です。